

会 議 録

平成 23 年 4 月 28 日

審議会等名	平成 22 年度 第 2 回三条市文化財保護審議会		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成 23 年 3 月 28 日 (月) 午前 10 時 00 分～正午		
開催場所	三条市中央公民館 第一会議室	傍聴者	なし
出席者	審議会委員 荒木会長、渡辺副会長、五十嵐委員、岡村委員、金子委員、関委員、高橋委員、長谷川委員、松井委員、松永委員、六原委員、若槻委員 事務局 金子生涯学習課長、近藤課長補佐、長谷川主査、田村係長、勝山主任		
欠席者	なし		
議題	(1) 文化財総合調査報告について ア 圓光寺地蔵菩薩坐像 イ 駒込観音堂聖観音菩薩立像 ウ 荒沢遺跡出土品 (2) 平成 22 年度芝地鶏(日本鶏)等級審査について (3) 『三条市文化遺産リスト』追加物件(案)について (4) その他		
	1 荒木会長 開会のあいさつ		
	2 議題		
	(1) 文化財総合調査報告について ア 圓光寺地蔵菩薩坐像 イ 駒込観音堂聖観音菩薩立像		
事務局	<p>三条市上保内にある曹洞宗龍澤山圓光寺の本尊木造地蔵菩薩坐像について、新潟県文化財保護審議会委員、愛知県立芸術大学教授熊田由美子先生に調査担当をお願いし詳細調査を実施した。この仏像は、像高が 22 c m で、針葉樹材で内削りが浅い寄木造りとなっている。頭部の大きいやや丈のつまった体軀で、厚手の衣縁や簡略化された衣服の襷などの技法は全体的にやや粗略であるが、膝の衣のたるみに古様な形式が見られる点や胎内の天正 10 年墨書から、この仏像の造立は 1582 年に当地域で制作されたものと考えられる。一般に造仏退潮期とされる時期のものであるが、胎内銘により制作時期が明らかであり、当地域の仏像編年の基準資料として貴重な作品であり、市指定文化財にふさわしい像と考えられるとの報告をいただいている。</p> <p>次に、下田地区駒込に所在する駒込観音堂にある聖観音菩薩立像について、同じく熊田先生から調査をしていただいた。像高が 29.2 c m の小像であるが、鎌倉中期以降にはやった着衣法をとっている。これは鎌倉時代中期の京都大恩寺六観音像に類似しているものの、調査した仏像はそれよりやや新しく 13 世紀末から 14 世紀前半頃に制作されたものとみられる。伝来などは不明で記銘なども確認されていない点などから、市内の同時期の仏像調査を進める中で比較し検討する必要があるとのことであった。</p>		

荒木会長	圓光寺地蔵菩薩坐像について、何か質問などあるか。
関委員	地蔵菩薩坐像は、銘が天正10年とあり、近世の当地の基準的な作例であるということであるが、古文書的にこの時期は、まだ戦国時代や室町時代としている。彫刻史的な様式で近世と呼んでいるのか。
事務局	天正10年は確かに中世と近世の境目にあたる時期であるが、彫刻史の様式などの考え方で近世とされたと思う。
荒木会長	曹洞宗のお寺で本尊を地蔵菩薩とするのは非常に珍しいと思われるが、これについて熊田先生は何かおっしゃっていなかったか。
事務局	熊田先生からは聞いていない。お寺にお聞きしたがどういう経緯でそうなったか詳細はわからないとのことであった。
荒木会長	胸飾と報告があるが、瓔珞とみていいか。
事務局	胸飾は写真にある胸のところにつけている装身具である。
荒木会長	菩薩の首の前に下がっている胸飾を瓔珞という言い方をしていると思う。宝珠も少し変わった形であるようだ。この仏像は当地で造られた寄木造のものである。 天正10年という墨書があり、作風からも文化財指定にふさわしい仏像であるということか。
事務局	技法としては粗略な部分がみられるものの、仏像の変遷をみる上で年代がわかる基準的な作品ということで貴重とされている。
五十嵐委員	年代がわかることは大変貴重であり、指定していい物件だと思う。表面は何か塗装がしてあったのか。
荒木会長	報告書に泥仕上げ彩色とある。泥仕上げという用語は初めて聞いたが、具体的にはどのような方法か。
事務局	との粉を下地に塗り、そこに彩色したものである。
五十嵐委員	仏像の底部が平らになって直に置いてあるので、当初は台座があったのではないか。
事務局	報告に像底の写真があるが、台座があったかどうかはわからない。背面の終わりが唐突になっているので、もともともう少し下まであったものを切断したのではないかと調査時に熊田先生からお聞きしている。
荒木会長	腐食か何で取り除いたとも考えられる。
六原委員	さきほどの瓔珞であるが、お寺の内陣の両脇にある飾りも瓔珞と呼んでいる。
荒木会長	高橋委員は何か質問はないか。
高橋委員	石仏はよく見る機会がある。木造の仏像は見る機会が少ないが、一般の方がお参りできるのか。
事務局	お参りをさせていただける。
荒木会長	厨子の中に納められているのか。
事務局	厨子の中に納められていて、高い位置に安置されている。
荒木会長	次に木造聖観音菩薩立像について質問があるか。
長谷川委員	立派な仏像であり、所有者から管理をしっかりとってもらいたい。 この仏像のあるところは、県道になっている古い峠道があって、昔からの交通の要

	所であったのではないか。
荒木会長	伝来や造立背景が不詳ということは残念である。堂内に伝わる宝暦10年の棟札に「聖観世音」との記載が見られるようであるが堂内にあるのか。
長谷川委員	観音堂内にあり、古いお堂の棟札であると思う。
荒木会長	少なくとも宝暦10年には伝存していたとみられ、250年程前にはそこに伝来していたと考えられる。
五十嵐委員	古い木であれば炭素年代測定をすることが可能ではないか。
関委員	それは出来るが完璧ではない。それよりも熊田先生が彫刻研究の様式などで考察し年代を示している。
荒木会長	重さは量らなかったのか。
事務局	重さは量っていない。
長谷川委員	この仏像調査の時に、他に100年ほどの後の作と考えられる木造地藏菩薩像も見せていただいた。
関委員	それは調査されなかったのか。
長谷川委員	写真などを撮影していかれた。
荒木会長	他に質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
	ウ 荒沢遺跡出土品
松井委員	<p>調査を担当したので私から報告したい。荒沢遺跡は、下田地区の荒沢字朴ノ倉に所在し、平成4年に発掘され旧石器時代、縄文時代草創期の石器群や旧石器時代の赤色顔料が本州で唯一出土した遺跡として全国的に注目されている。</p> <p>旧石器時代の石器類は1324点あり、剥片剥離、製品製作などの旧石器時代後期後半の石器製作の過程を示す良好な資料である。編年指標となるナイフ形石器や彫器が出土しており、約15,000年前の旧石器時代後期後半を代表する石器群である。</p> <p>また、旧石器時代の赤色鉄石英礫片とそれを赤色顔料に加工した磨石が出土している。旧石器時代における赤色顔料の出土は、北海道の数遺跡で検出されているだけで、本州では荒沢遺跡のみであり、大変貴重な出土品である。</p> <p>縄文時代草創期の石器群は、尖頭器、スクレイパー、剥片の計17点である。これは約12,000年前の石器群と推測される。この時期の遺跡は全国的に少なく、縄文時代草創期の越後地方を探る上で貴重な出土品である。</p> <p>以上のように荒沢遺跡の旧石器時代石器類と縄文時代草創期石器類は、五十嵐川流域の当時の人々の生活を考える上で重要であり、三条市を代表する考古資料として保存・活用を図る必要があり、三条市指定文化財として指定されることが望まれる。</p> <p>主な出土品を持参してもらったので見学いただきたい。</p>
	(出土品見学)
荒木会長	荒沢遺跡出土品について質問があるか。
五十嵐委員	赤色顔料の石材は、ほかの場所から持ってきたものか。
松井委員	今でも五十嵐川流域で採集できるもので、五十嵐川流域で採集して遺跡内に持ち込んだものと考えられる。

荒木会長	出土品を実見すると大変貴重なものであることがわかる。道路工事で発掘したということであるが、やまなみロードはこの遺跡の上を通っているのか。
松井委員	遺跡範囲は広く、その一部がやまなみロードの工事により発掘された。
荒木会長	新潟県立歴史博物館館長であった小林達雄先生からお聞きしたことがあるが、縄文時代草創期の日本海側は、大陸と陸続きだったので暖流が上がってこないため、雪が降らなかったという話を聞いたことがあるがどうか。
松井委員	そのように考えられている。
荒木会長	今では雪深い場所の遺跡でも十分に住めたということか。
松井委員	旧石器時代は氷河期で草原のようであったと考えられる。北極や南極あるいはその手前の方まで氷が張っていて、海退とって海面が下がっていた。そうすると日本海が湖になって北から南から陸続きになりマンモスが入ってきたり、ナウマンゾウが入ってきたようである。野尻湖あたりではナウマンゾウの解体の遺跡が発見されている。
五十嵐委員	上野原遺跡では、石器の製造をやったといわれているが、この遺跡でも石器の製造を行った場所があるか。
松井委員	遺物集中域がいくつかあり、ナイフ形石器や彫器のほか、剥片が大量に出土し接合するものがあり、石器製作址であったと考えられる。
五十嵐委員	五十嵐川流域にその石器の材料となる石が集中してあるからということか。
松井委員	五十嵐川流域で採集される石材がほとんどである。
岡村委員	赤い石があったが、笠堀周辺では赤い石の他に黄色い石もあるが、それは使われなかったのか。
松井委員	顔料としては、当時の人が赤や朱を意識して使ったと思われる。赤は宗教というか生命の色というか、人の血液も赤であるので、精神的な行為に使用したものと思う。
事務局	黄色の石材も出土している。
松井委員	黄色の石材は石器として使用している。赤色の石材は粉にして、呪術的なものを使用している。
五十嵐委員	赤い石材は、粉にしたということであるが、それを使用したような痕跡は見つかったか。
松井委員	発掘した地点では、その痕跡は見つかっていない。ただし、大量に石材が見つかっているので、荒沢遺跡のどこかで使用したと推定される。
岡村委員	赤い石をつぶした石は、普通の石のように見えるが赤色が付着しているのでわかる。礫のような川原石みたいなものが遺跡から出土した場合、どのように取り扱うのか。
松井委員	磨ったり叩いたりした痕跡があるのは遺物である。また、地面に並べておいたりしたものは遺構になる。発掘する際に十分に気をつけて調査し、慎重に判断する。
荒木会長	報告の写真にある川原石のようなものに赤い痕跡が付いているが、これはどのようなものか。
松井委員	赤色鉄石英礫片と呼んでいるやや軟質の赤い石材をこの石の上ののせて、磨り潰したり、叩いたりし、赤色顔料と呼んでいる赤い粉状のものに加工した跡がついている。

渡辺副会長	荒沢遺跡の発掘調査では発見されていないかもしれないが、他の遺跡でこの赤色鉄石英を使った跡は見つかっているか。
松井委員	縄文時代ではあるが、旧石器時代では北海道の他、本州では荒沢遺跡しか出土していない。少量であれば荒沢遺跡周辺の遺跡でも出土例があるが、この遺跡のように大量に出土しているところは他にはない。
渡辺副会長	この遺跡の近くにある御淵上遺跡との関係はどうか。
松井委員	御淵上遺跡で出土したナイフ形石器は、荒沢遺跡よりも古い時代のものである。
五十嵐委員	黒曜石は地元ではなく、他のところから持ってきたものか。
事務局	分析により青森県深浦産の黒曜石とされている。
荒木会長	400キロも離れた遠くから持ってきたということになる。黒曜石産地の図に高原山があるが、近い場所なので行き来はなかったのか。
松井委員	質がいい黒曜石ではないので、長野県の和田峠産の質のいいものが多く出土している。
五十嵐委員	縄文時代は確かに昔であるが、人の往来が早くからあったようである。
荒木会長	他に質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
	(2) 平成22年度芝地鶏(日本鶏)等級審査について
岡村委員	平成22年8月1日に開催した三条市指定天然記念物となっている芝地鶏(日本鶏)等級審査の結果について報告する。審査基準により審査を行い、12項目の審査項目のうち9項目以上で高い評価を得た7羽について総合評価がAとなった。
荒木会長	芝地鶏は何羽程度飼育されているのか。
岡村委員	新潟県内には約300羽おり、県外ではほとんどいない。
荒木会長	新潟県独自の鶏であるということであるが、今回の審査の中にあっただが、白色というのもいるのか。
岡村委員	これは鶏に限らず、動物によくあるアルビノと呼ばれる白化現象である。
五十嵐委員	新潟県では300羽位となると近親交配が進むことになると思うが、それを防ぐ何か手立てはあるのか。
岡村委員	飼育者を増やしていくことが大切である。市の文化財に指定されてからは、それほど多くはないが飼育をしてみたいという方が出てきている。
荒木会長	他に質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
	(3) 『三条市文化遺産リスト』追加物件(案)について
事務局	保存・活用が必要な文化遺産の資料として作成している『三条市文化遺産リスト』について、北四日町にある静照院釈迦堂の建造物を1件追加したい。釈迦堂は1間四方の建物で、宝暦12年(1762年)に本成寺より移築したとする棟札がある。文化遺産リストは、これを追加すると150件の物件が掲載されることになる。
荒木会長	静照院釈迦堂は、平山先生から調査していただいたが、どのような評価であったか。

事務局	古い様相を残していて江戸時代前期まで遡るのではないかとされていた。詳細な調査結果は現在まとめていただいているので、次回の会議で報告させていただきたい。
荒木会長	他に質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
	(4) その他
事務局	本日資料として三条市内の指定及び登録文化財一覧表と三条まちなか歴史文化マップを配布した。このマップは、地域経営課、生涯学習課、都市計画課が連携して中心市街地の町並みを町歩きできるようにとまとめたもので、建物調査の結果や小路名の由来などを掲載してある。 また、2年間の委員任期の最後の会議であるのでお礼を申し上げたい。
荒木会長	他に何かあるか。
	(質疑、意見なし)
荒木会長	これで閉会とする。

以上